

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|------------------|
| 事業所番号 | 4072500285 |
| 法人名 | 日本医療サービス 株式会社 |
| 事業所名 | グループホーム大川 |
| 所在地 | 福岡県大川市大字榎津160番地1 |
| 自己評価作成日 | 平成23年1月11日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|---------|-----------|
| 評価機関名 | 財団法人 福岡県メディカルセンター | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年1月25日 | 評価結果確定日 | 平成23年3月3日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、ご利用者やご家族と共に支え合う姿勢を大切にしながら支援しています。ご利用者の傍らに寄り添い、学ぶべきところは吸収し、時にはケンカしたり、泣いたり笑ったり、家族のように接していきます。
 毎日ホーム周辺の散歩を行なっています。外出の際には、おしゃれやお好みの散歩コースを楽しめるよう、日常的な外出を大切にしています。食事の準備や洗濯物たたみなど、職員とご利用者が一緒に行き、日常生活を活気あるものとなるように取り組んでいます。
 当グループホームは6階建ての4階に位置し、デイルームが一面ガラスの窓に覆われ見晴らしがよく、そこから見える日の出は最高です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに 印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに 印 |
|----|--|----|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 独自の理念を創り、各職員が意識し実践している。また小さなことでも管理者に報告を行い改善に向け、努力している。 | | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 定期的に運営推進会議を開催し情報交換等を行っている。また日常的に散歩を行い、地域の方と挨拶を交わしている。 | | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 介護教室を通して、認知症サポーター養成講座を開催している。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を定期的で開催し、地域の代表者と意見交換を行っている。 | | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 適時、市町村と連絡、相談し合い協力関係を築けるよう取り組んでいる。 | | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識している。やむを得ない場合においても、その代替性について検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会を通して、学ぶ時間を作り、職員間で風通しの良い職場を心がけ、虐待防止に努めている。 | | |
| 8 | (6) | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会等に参加し、ミーティング等の際に資料を職員に配布し、話し合いや勉強会を行い、それらを活用できるように支援している。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時の説明はもとより、適時ご利用者・ご家族と話し合いの場を設け、書面に沿って説明し、理解を得られるよう努めている。 | | |
| 10 | (7) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 契約時に苦情等の窓口を明示し、日常的に職員や管理者に意見、要望等を表せる機会を設け反映している。また、定期的に介護相談員の来訪があり意見や要望を表出できる機会を設けている。 | | |
| 11 | (8) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング等において、職員の意見や提案の機会を聞き、それを反映するように努めている。 | | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日常的に職員個々とのコミュニケーションをはかり、整備に努めている。 | | |
| 13 | (9) | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 幅広い年齢層のスタッフを採用しており、職員間の関係も比較的良好で互いに研鑽している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | (10) | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | ケア場面を通じ、利用者本位の視点の捉え方を共に考えるようにしている。 | | |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 入社した期間別にフォローアップ研修に参加している。また、外部の研修等へ参加できるような声かけも行っている。 | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループ内の研修会等で他事業所との交流をはかっている。まだ特定の職員が対象となりがちな現状であるが、皆が交流できるようになりたいと考えている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 丁寧なコミュニケーションを通して、信頼関係が築けるように、一つ一つ小さなことから始め、時間をかけて受け止めていくようにしている。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人様と同様に、コミュニケーションを通して信頼関係が築けるように、一つ一つ小さなことから始め、また話しやすい雰囲気作りに努めている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用相談のなかで、客観的に多様な視点を持ち、必要な支援に繋がるよう努めている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活において、一緒に炊事、洗濯等を行っている。傍らに寄り添い、学ぶべきところは吸収し、時にはケンカしたり、泣いたり笑ったり、家族のように接している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来訪時に近況報告を行ったり、介護計画を説明することにより少しずつ家族の計画内容への理解が増し、意見を導き出せるようになってきている。 | | |
| 22 | (11) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域の祭り、散歩時の馴染みの店への買い物、時には家族の協力も得ながら、可能な範囲での支援に努めている。 | | |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーションや新聞読みなどで、共有の情報を提供し、会話のきっかけ作りを行っている。また利用者同士の会話には出来る限り立ち入らず、会話の機会、環境を整えている。 | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去者の家族と、外出先で出会ったときなど、丁寧な対応を心がけている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の日常の訴えや行動を記録に残し、思いや意向の把握に努めている。 | | |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族等とコミュニケーションをはかり情報を収集し、アセスメントを行っている。その情報を全職員で共有し、業務に反映できるように心がけている。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人カルテなどを参考にして、体調や現状の把握に努めている。また日常の表情や行動、会話の中からも心身状態を理解するようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | (13) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人(家族)、職員を含めケアカンファレンスを定期的に関催、介護計画を作成している。また毎月モニタリングを行い、その情報を全職員が共有できるようにしている。 | | |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録や申し送りノートを利用して職員間で情報を交換、共有しながら介護計画を見直すように努めている。 | | |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時のニーズに合わせ外出、散歩、買い物やりハビリ等を行っている。また本人、家族の希望により共に食事を摂れるようにしたり、居室を利用して、共に宿泊できるようにしている。 | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新聞や市報などで、まず職員が情報を収集し、本人とコミュニケーションを取りながら、可能な範囲で支援している。 | | |
| 32 | (14) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ニーズに沿った医療機関を利用。受診の際は情報提供書にて情報を伝え、受診後は医師からの報告を受け取り、関係を築きながら支援している。 | | |
| 33 | | 看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を週に1日配置、状態等を相談している。それ以外の日も状態によっては、日常的に相談している。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院中の状況を把握し、医師や相談員との情報交換に努めている。退院後も適切なケアが提供できるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (15) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 機会ある毎に本人、家族の意思を尊重し、家族、医師も含め話し合いの場を設けている。出来る限りの対応に努めると共に、チーム全体で方針の統一を図っている。 | | |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時マニュアルを作成し、日頃から対応方法の意識付けを図っている。研修への参加や、ミーティングでのシミュレーションを行っている。 | | |
| 37 | (16) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 利用者を含めた防災訓練を定期的を実施している。また毎日、防災点検表を利用し、点検項目をチェックし、全職員に意識付けをしている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その方に合った言葉かけや、対応を行っている。プライバシーを損ねるような対応や記録は行っていない。 | | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 尋ね方の工夫、本人の希望を傾聴したり、希望を表せるような雰囲気作りを心がけている。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自己決定を尊重し、一人一人のペースで過ごせるように支援している。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時の整容、好みの服装、使い慣れた化粧品など支援している。また外出時の帽子や靴、マフラーや膝掛けの小物等、本人の好みに合わせた支援も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | (18) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎食時のメニューを見える所に掲示している。食事前の準備として、おしぼり作成や、食事のつぎ分け、食後にはお盆拭きやテーブル拭き等一緒に行っている。 | | |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 必要に合わせ、紅茶、コーヒー等の嗜好品からの水分補給を行っている。食事の形態として、一口大、キザミ、ミキサー、おむすびと一人一人の状態に応じた支援を行っている。 | | |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人一人に合わせた口腔ケアを起床時、毎食後、就寝前に行っている。用具のセッティング、見守り、一部介助、全介助等。 | | |
| 45 | (19) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表等を活用し排泄時間の把握に努め、自立に向けた支援を行なっている。 | | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 適度な運動や水分補給を行っている。また、下腹部のマッサージ、状況によっては下剤も使用している。 | | |
| 47 | (20) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 利用者の気分や状態、都合に合わせた入浴と基本入浴時間を使い分けている。また使い慣れたシャンプーやトリートメント、石鹸を使用されている方もいる。 | | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 共有部のソファや、畳等でテレビを視聴されたり音楽を楽しまれたりと、休息スタイルの見守りや声かけをしている。また安眠できるように居室内の温度調整、体位変換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書に必ず目を通し、個人カルテ内にて、いつでも見られるようにしている。また飲み込みの確認や状態に合わせて工夫した内服介助を行っている。 | | |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の気晴らしを活かせるように、役割、楽しみごと（計算問題、手工芸、金魚のえさやり）や外出、散歩、行事、レクリエーション等に取り組み支援している。 | | |
| 51 | (21) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望に沿ったコースで散歩支援を行っている。また一時帰宅や、馴染みの店への買い物支援も行っている。 | | |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々の能力や希望に応じ、ご家族と相談しながら管理方法を検討している。預かり金対応の際は、金銭出納帳を利用し、定期的にご家族へ報告を行い、出納を明らかにしている。 | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じて電話支援を行い、時にはコードレス電話機にて自室で支援し、プライバシーにも配慮している。 | | |
| 54 | (22) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間に利用者の作品などを飾り、その季節毎に飾り付けを変えている。光量、空調の配慮も行っている。全てフローリングの為、畳を配置し、くつろぎやすい環境調整を行っている。 | | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビの周りに大きめのソファを配置。談話しやすく、テーブル席の調整も行っている。また廊下の奥に椅子を配置し、一人になれる、気分転換の出来る空間を提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 56 | (23) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用されていた馴染みの物や、思い出の物を持参し、自宅同様に居室にて使用していただいている。また本人、家族と相談し、家具等の配置においても居心地よく過ごせるよう工夫している。 | | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室間違いのある方には手作りで大きめのネームプレートを居室の前に配置している。また車椅子や歩行器の邪魔にならないように、障害物を少なく広いスペースを確保している。 | | |